

鈴木 舞 & 川口成彦

【最終回】 モーツァルト！ ヴァイオリンソナタ 全曲演奏会

神に召された天才モーツァルトが
描いたヴァイオリンとピアノの
ためのソナタ全曲演奏会、
遂に最終回！

「さらなる深みへ
vol.2」

ヴァイオリンソナタ 変ロ長調 K. 378 ※初期作品

ヴァイオリンソナタ ヘ長調 K. 547

アダージョ 回短調 K. 540(ピアノソロ)

ヴァイオリンソナタ イ長調 K. 526

*プログラム等は、やむを得ない事情により、変更になる場合がございます。



2023年 1月14日(土)

開場14:30/開演15:00

【入場料】

会員 4,500円(座席指定可)/一般 5,000円/学生 2,500円(全席自由席)

<https://bit.ly/3eFlcux>

鈴木 舞&川口成彦 モーツァルト・ヴァイオリンソナタ全曲演奏会

2023年1月14日 (土) 第5回「さらなる深みへ vol.2」【最終回】
開場14:30/開演15:00

【入場料】会員 4,500円(座席指定可)/一般 5,000円/学生 2,500円(全席自由席)

神に召された天才モーツァルトが描いたヴァイオリンと
ピアノのためのソナタ全曲演奏会、遂に最終回!

【123シリーズ・全曲プロジェクト第4弾】

鮮烈なスタートを切った第1回では、モーツァルトの音楽の不思議な魅力を圧倒的に感ぜずにはいられませんでした。そして第2回、第3回の「1781年」では、宮廷楽師の職を捨て、フリーランスの音楽家として歩み始めた25歳のモーツァルトが、葛藤と苦悩のなか、さらに輝きを増して生まれた作品たちに魅せられました。第4回では、ウィーン時代の作品に触れ、さらなる深みを増す新たな一面や美しさを発見しました。

そして今回の第5回「さらなる深みへ vol.2」では、モーツァルトの本質を映し出すような後期の作品を中心に取り上げます。

1787年(31歳)のとき、父レオポルトが死去した年に書かれたイ長調 K. 526。そして、1788年(32歳)のとき、三大交響曲(第39番、第40番、第41番)が書かれた年にはへ長調 K. 547とアダージョ短調 K. 540が書かれています。

彼の鬱積した芸術が奔出されるように、作曲家として脂の乗り切ったこの時期に書かれた作品は、まさに至高のモーツァルトを象徴する作品ばかりといえるのではないのでしょうか。

モーツァルトの音楽はどんな曲であっても、常に太陽のようにわたしたちを照らしてくれます。

“全曲演奏会”だからといって気を張ることはなく、聴けば聴くほど身体も軽くなり、心身共に浄化されていくのがモーツァルトの音楽です。

神学者のカール・バルトは、「天国では、神様たちはモーツァルトの音楽ばかりを聴いている」といっていますが、まさに頷けます。

どこまでも美しく、純度の高い音楽を生み出し続けた天才ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)。その奇跡ともいえる音楽の秘密に、鈴木舞、川口成彦という二人の才能が挑みます!

求道的な姿勢で音楽の本質を探究し、研ぎ澄まされた感性から生まれるインスピレーションをニコロ・アマティによって紡ぎ出す鈴木舞——。

ショパン国際ビロリ音楽コンクールで第2位を受賞し、新進気鋭の古楽器奏者として一躍、注目を浴びている川口成彦——。

今、この二人の奏者のコラボレーションにとときめきが始まります。モーツァルトが駆け抜けた35年という短い生涯にも、たびたび、立ち止まり、振り返ることがあったことでしょう。そして、さらに駆け抜けていく、それがモーツァルトの生涯でした。モーツァルトの“魂の真昼”の真っ只中に書き遺された作品は、時代を超え、現代に生きる私たちの生命・生活・生涯のさまざまな場面で、わたしたちが忘れていた“汚れない真実”を垣間見せてくれているのではないのでしょうか。(渋谷美竹サロン)

123
Shibuya Mitake Salon (vol.1)
全曲プロジェクト第4弾



鈴木 舞 (SUZUKI Mai) Violin

東京藝術大学附属高校、同大学を卒業し、ローザンス、ザルツブルグ、ミュンヘンでディプロマ、国家演奏家資格を取得。在学中より国内外でリサイタルやコンサートに出演し、これまでに小林研一郎、円光寺雅彦、飯森範純、ニコラス・ミルトン、ヨルマ・バスラ、イヴァン・レプシツらの指揮で、読売日響、東響、日本フィル、スイス・ローザンス室内管、フィンランド・クオピオ響、チェコ・モラヴィアフィル、ドイツ・ホーフ響、クロアチア放送響、ザグレブ・トリステン等と共演。

2007年チャイコフスキー国際コンクール(ロシア) 最年少セミファイナリスト、2011年アンリ・マルター国際コンクール(ドイツ)ファイナリスト、2013年ヴァーツラフ・フムル国際ヴァイオリンコンクール(クロアチア)で優勝、オーケストラ賞。オルフェウス室内楽コンクール(スイス)優勝、2016年スピリッツ国際ヴァイオリンコンクール(ロシア)第2位、2018年ヨーロッパ・ミュージックアワード室内楽コンクール(イタリア)第2位。

2012年度シャネル・ビグマリオン・デイズ・アーティスト。東京交響楽団と録音したベートーヴェン・ヴァイオリン協奏曲〜第3楽章、マスネ・タイスの瞑想曲が日経ミュージックセレクションCD「モーニング・イン・クラシック」に収録された。2017年にキングレコードよりデビューアルバム「Mai favorite」をリリース、2020年「ロード・ロック展」(三菱一号館美術館)のオーディオガイド、並びにタイアップCDに演奏が使用された。使用楽器は1683年製のニコロ・アマティ。



川口 成彦 (KAWAGUCHI Naruhiko) Piano

1989年に岩手県盛岡市で生まれ、横浜で育つ。第1回ショパン国際ビロリ音楽コンクール第2位、ブルージュ国際古楽コンクール最高位、第1回ローマ・フォルテピアノ国際コンクール優勝、フィレンツェ五月音楽祭や「ショパンと彼のヨーロッパ」音楽祭(ワルシヤ)をはじめ欧州の音楽祭にも出演を重ねる。

協奏曲では18世紀オーケストラ、John Orkietra Historyczna などと共演。2018年にはロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団のメンバーと共に室内楽形式によるピアノ協奏曲のリサイタルをオランダにて開催した。またモダンピアノでは2016年にアメリカにて世界的オーボエ奏者ニコラス・ダニエルと共にブランクの「オーボエ、バソーンとピアノのための三重奏曲」の最終稿の世界初演を行っている。東京藝術大学/アムステルダム音楽院の古楽科修士課程修了。

フォルテピアノを小倉貴久子、リチャード・エガールの各氏に師事。欧州のレーベルからリリースされたCDに加え、2018年には自主レーベル MUSIS を立ち上げ、第一弾としてバルトークの「2台のピアノと打楽器のためのソナタ」をアナログレコードでリリースする。またスペイン音楽をこよなく愛し、2019年にCD「ゴヤの生きたスペインより」を発表する(レコード芸術/朝日新聞特選盤)。2020年にはACOUSTIC REVIVEより「ショパン夜想曲&小品集」を発表、第46回日本ショパン協会賞受賞。

モーツァルト ソナタ全曲演奏会 (2021年~2023年)

- 第1回「ソナタ集」2021年1月13日(水)
- 第2回「1781年 vol.1」2021年7月28日(水)
- 第3回「1781年 vol.2」2022年1月15日(土)
- 第4回「さらなる深みへ vol.1」2022年7月13日(水)
- 第5回「さらなる深みへ vol.2」2023年1月14日(土)



世界に通用する才能溢れる
トップアーティストが
続々と集結!

大ホールのプラチナ席をしのご
生演奏の醍醐味、
一期一会で味わう圧倒的な臨在感。

日本のトップクラスの若手演奏家が、
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。
渋谷美竹サロン(美竹清花さん)が追求する
“本物の音楽”は、演奏者と参加者とわたしたちの、
三位一体の努力と対話から生まれます。



誕生。
クラシック音楽サロン、
宮益坂、
渋谷駅 徒歩2分

大好評につき
サロンメンバー
追加募集中!



●お問い合わせ
株式会社 ILA 渋谷美竹サロン (美竹清花さん)
東京都渋谷区渋谷1-12-8 (〒150-0002)
☎ 03-6452-6711 (平日 10:00-18:00)
070-2168-8484 (時間外可)
Fax 03(3409)0188



公式Webサイト